



今年ももうすぐ読書週間（10月27日（水）～11月9日（火））がやってきます。今年の標語は「最後の頁を閉じた 違う私があった」。皆さんはこの体験をしたことがありますか？ ある人もない人も、この機会に図書館に立ち寄り、1冊手に取ってみてはいかがでしょうか。違う自分を見つけることができるかもしれません。

読書週間とは？



終戦の2年後の1947年（昭和22年）、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは11月16日から1週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受け、現在の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）となったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まっています。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。

（「公益社団法人読書推進運動協議会」HPより）

本選びのお供に

「自分で本を選ぶのが難しい」「いつもとは違うジャンルを読みたい」。そんな方へ今回は、本選びのサポートをしてくれる2冊を本校図書館所蔵の中からご紹介します。

『まなの本棚』

芦田愛菜 著/小学館

本好きとして知られる芦田愛菜さんが、今まで読んだ本について紹介した1冊。絵本から始まり児童書、図鑑、一般文芸から古典、海外作品まで……。あらゆるジャンルが網羅されています。しかもどの本も情熱に溢れた言葉で紹介されていて、愛菜さんの「本が好きだ！」という気持ちが伝わってきます。



『令和3年度「おもしろい本な〜い？」』

福島県高等学校司書研修会 発行

県内の高校の学校司書たちによって毎年発行されているブックリスト。高校生にオススメの本が、王道から個人的な分野まで多岐にわたり紹介されています。2年以内に出版された本の中から選ばれているので、新しい本が読みたい人へもオススメです。



月間多読賞(9月)

2年1組 H・Wさん (4冊)
 3年1組 A・Yさん (10冊)
 3年1組 T・Sさん (4冊)

月間多読賞【げっかん たどく しょう】1ヶ月間に本校図書館から本を4冊以上借りた人に贈られる賞。図書館・図書委員会による共催。今年度新設された。特典①図書館だよりへの名前(イニシャル)の掲載。特典②記念品(葉型賞状)の進呈。

皆様のチャレンジお待ちしております